

主 題：わたしを愛しますか3

聖書箇所：ヨハネの手紙第一 3章18節

「あなたはわたしを愛しますか？」と主はペテロに問われました。神を心から愛するか？と問われました。そして、私たちはこのヨハネの手紙を学んでいるのですが、ヨハネは私たちに主を愛することはあなたの兄弟姉妹たちを愛することであると、そのように教えるのです。主を愛すること、兄弟を愛すること、どのような愛で愛するべきなのか？ヨハネはそのことを私たちに教えてくれています。主がお喜びにならない愛でもって「愛している」と言う人もいます。

☆「愛すること」に関するヨハネの激励

A. 主が喜ばれない愛

ヨハネのことばを借りるなら、それは「ことばや口先だけで愛する」ことだと言います。うわべだけで心がこもっていないのです。なぜ、そのような愛を神はお喜びにならないのか？それは私たち救われた者たちが示す愛は神の愛に倣ったものだからです。今からそのことを見ていきます。主は私たちをうわべの愛で愛したのではありません。心からなる愛をもって愛してくださいました。だから、ヨハネは「その愛に倣って私たち自身心から愛し合ってください。」と言うのです。

B. 主が喜ばれる愛

ですから、ヨハネは神がお喜びになる愛はうわべでなく「行ないと真実をもって愛する愛である」と、3：18で教えています。

1. その模範：主イエスの愛

そして、私たちが目標とする愛は主イエス・キリストご自身が私たちに示してくださった愛です。ヨハネはヨハネの福音書の中でこのように言います。15：12「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」と。はっきりしています。私たち主イエス・キリストによって救われた者たちが兄弟姉妹に対して示す愛は、主があなたに示してくださった愛です。それを模範にして愛を示しなさいとみことばは教えるのです。ですから、私たちはどのような愛をもって愛されたのか、どのような愛をもって愛されているのかをしっかりと知ることが大切です。

*「主イエスの愛」について五つのことを学ぶ

1) 自己犠牲の愛

自分を犠牲にする愛です。Iヨハネ3：1「私たちが神の子どもと呼ばれるために、——事実、いま私たちは神の子どもです。…」つまり、救いのことです。「——御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょうか。」と、父なる神はどんなにすばらしい愛を私たちに与えてくれたことでしょうかと、救いに関して、あなたが罪から救われるためにどれ程大きな愛をあなたに与えてくださったか、そして、ヨハネは同じ3：16でこう言います。「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」と。ですから、私たちが模範にするべき愛は主イエス・キリストの愛であり、そして、その愛はご自分を犠牲にしてあなたに示されたものです。あなたを罪から救い出すために、罪のさばきから罪の束縛から罪の力から救い出すために、ご自分のいのちを喜んで十字架で犠牲にしてくださいました。その愛を覚えることだと言うのです。

ガラテヤ2：20で「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」とパウロは言っています。見ているように、あなたが救いに与り、今、救いを喜んでいるのは、この尊い主イエス・キリストのいのちという犠牲に基づいています。主イエス・キリストはあなたに代わって十字架に掛かり、あなたに対する神の怒りを受けてくださった。そのような大きな犠牲が払われたのです。なぜ、イエス・キリストはあなたのためにそのような大きな犠牲を払ってくださったのでしょうか？私たちが罪から救い出すためです。私たちにとって一番必要な罪の赦しという必要に応えるためです。私たちが死んでそのままならその必要はありませんが、私たちは死んだ後、一人ひとり神の審判を受けなければいけないゆえに、その罪がさばかれるゆえに、救い主は私たちのために来てくださったのです。

ですから、主イエス・キリストがしてくださった行為を見るときに、主はご自分のことよりもあなたのことを考えてくださって、一番必要な救いのためにご自分を犠牲にしてくださいました。だから、みことばは私たちに教えるのです。その愛に倣って、その愛の実践を今度はあなたが為していきなさい

と。イエスがそうであったように、私たちも兄弟姉妹たちの霊的必要に応じていこうとするのです。つまり、イエス・キリストを信じた者たちが信仰にあって成長していくために、私たちは労していくというのです。もし、つまづきになっているなら悲しいことです。私たちは彼らの信仰が成長するために労していくのです。そして同時に、私たちはまだこのすばらしい救いに背を向けておられる人たちに、この救いのメッセージを語り続けていくのです。

パウロはローマ人への手紙15章でこのように言っています。「自分を喜ばせるべきではありません。:2 私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。:3 キリストでさえ、ご自身を喜ばせることはなさらなかったのです。」(15:1b-3)。私たちもイエスに倣って自分のことを考える前に、兄弟姉妹のことを考えて彼らの必要に応じていきなさい、そのことを実践しなさいということです。

⇒ (1) 物質的必要を満たす

(2) 信仰的必要を満たす

私たちはそのような霊的必要に応えるだけでなく、ヨハネがIヨハネ3章で教えるように、兄弟姉妹の物質的必要にも応えていきなさいということです。いろいろな必要を抱えている方がいますから、その必要に私たちは応えていくのです。彼らの必要が満たされるように祈ることができます。同時に、その必要に対して具体的に援助を為すこともできます。そうして愛を示しなさいとみことばは私たちに教えます。主イエス・キリストの犠牲的な愛を見たときに、私たちもその愛に倣ってそのように行なうのです。

2) 赦す愛

私たちが崇拜する神は「赦しの神」だということができます。旧約聖書ではそのように呼ばれています。詩篇86:5に「主よ。まことにあなたはいつくしみ深く、赦しに富み、あなたを呼び求めるすべての者に、恵み豊かであられます。」とあります。このように、私たちが神と崇拜するお方は「いつくしみ深く、赦しに富んでおられる」のです。出エジプト34:6-7にも「主は彼の前を通り過ぎるとき、宣言された。「主、主は、あわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富み、:7 恵みを千代も保ち、咎とそむきと罪を赦す者、罰すべき者は必ず罰して報いる者。父の咎は子に、子の子に、三代に、四代に。」と、民数記14:18にも『主は怒るのにおそく、恵み豊かである。咎とそむきを赦すが、罰すべき者は必ず罰して、父の咎を子に報い、三代、四代に及ぼす。』と。」とあります。これが私たちの神です。これがすべてをお造りになった神です。私たち罪人に対してそのようにあわれみ深いお方であり、私たちの罪を喜んで赦してくださるのです。だから、今、私たちはこのように神の前に立てるのです。私たちは毎日の生活の中で神の前に罪を告白し続けなければいけません。私たちはどれだけの罪を犯し続けていることでしょうか。それにも関わらず、今、こうして神の前に立つことができるのは、この方が赦しの神だからです。主の前に赦しを求めるなら主が赦してくださる、そのような神だからです。ダニエルはこのように言います。ダニエル書9:9「あわれみと赦しとは、私たちの神、主のものです。これは私たちが神にそむいたからです。」、私たちが絶対的に赦すことができないような者を神は赦してくださったのです。

そして、この赦しの神は赦しを実践されました。十字架をもう一度思い出してください。神は私たちを愛すると言われただけではありません。神はその愛を具体的な形で現わしてくださったのです。赦しの神はその赦しを実際的に現わしてくださったのです。自ら十字架に掛かって、私たちの罪の贖いを成し遂げようとされたのです。それだけではありません。イエス・キリストが十字架に磔にされているときに、彼はその十字架上で祈られました。ルカ23:34「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」と。群衆はイエスを嘲り罵声を浴びせていました。十字架の上でも自分を嘲る者たちのために赦しを祈られたのです。だから、それに倣ってあなたたちも赦し合っていくべきです。マタイ6:14-15にイエスは驚くべきことを言われています。「もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。:15 しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。」と。これだけを見ると、私たちが赦される条件は私たちが人の罪を赦すことである、そうしなければ私たちは赦されないとそのように思ってしまうのですが、どうでしょうか？ある人はこの「赦す」というのは「罪からの救い」だと言うかもしれません。もし、そうなら、「赦す」という行ないによって救われるということになります。みことばはそのようには教えません。では、ここで何を教えているのか？それは、こうして赦し合うこと、赦すという行為はその人が救われていることの証であるということです。救われている人の特徴なのです。

クリスチャンの特徴は「人を赦すこと」です。なぜなら、赦されたことを知っているから、赦されたことを体験しているからです。だから、イエスは「あなたが人の罪を喜んで赦すということはあなたが救われているからで、救われた者たちはそのようにして互いに赦し合っていく。」と言われたのです。それは赦しの神が私たちのうちにおられるからです。だから、私たちはそのような者へと変えられてい

くのです。人を赦すことも、人を愛することも非常に難しいことです。でも、神がそれを実践させてくださるのです。なぜなら、愛の神があなたのうちにいるからあなたは愛の人に変えられていくし、赦しの神があなたのうちにいるからあなたは赦しの人として変えられていくのです。だから、みことばは教えるのです。このように兄弟を愛する者たち、このように兄弟を赦す者たち、それは彼らが救われているからだ。

3) 無条件の愛

主イエス・キリストの愛は無条件の愛です。主なる神はあらゆる人を愛されました。そこには私たちのような個人的な好みはありません。ルカの福音書6：27を見ると「しかし、いま聞いているあなたがたに、わたしはこう言います。あなたの敵を愛しなさい。あなたを憎む者に善を行ないなさい。」とあります。主はこのように教えられたのです。「今、わたしの話を聞いているあなたたちにわたしはこう言います。

『あなたの敵を愛しなさい。あなたを憎む者に善を行ないなさい。』、正しいことを行なっていくなさい。」と。そして、イエスは教えただけでなくそのことを実践されたのです。実際に敵を愛されたのです。神の敵を愛されたのです。それはだれのことですか？私たちのことです。ローマ5：10に「もし敵であったわたしが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられたわたしが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。」とあります。コロサイ1：21でも「あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となって、悪い行ないの中にあつたのですが、」とあります。ですから、私たちはみな神の敵として生まれ、神の敵として生きていたのです。ゆえに、神に逆らい続けることを選択して来たのです。でも、神は敵である私たちを愛してくださったのです。イエスが言われた「あなたの敵を愛しなさい。あなたを憎む者に善を行ないなさい。」こそ、まさに、主イエス・キリストが私たちのために為してくださったことです。

パリサイ人や律法学者たち、当時の宗教家たちはイエス・キリストを非難しました。イエス・キリストは罪人たちと交わっている、いっしょに食事をしていると。それは彼らが「罪人」と呼ぶ人たちを愛していなかったことを意味しています。主は彼らを愛され彼らと親しく交わられました。誤解してはならないことは、その罪を見てみぬふりをしていたのではないということです。イエスは彼らと交わり、彼らに悔い改めを命じていました。だから、その中から多くの者たちが主イエス・キリストの前に悔い改めをもって救いに与ったのです。主イエス・キリストは人を無条件で愛しました。まさに、言われた通りのことを実践されたのです。ですから、私たちにも「敵を愛しなさい。この人は好き、あの人は嫌いなどということがあってはならない。」、主の愛が無条件であるように、私たちもすべての人を愛するようにと言われるのです。

4) 仕える愛

主イエス・キリストを見るとき、主ご自身がまさに「仕える愛」をもって愛されたことを見ることができます。ヨハネの福音書13：1に「さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。」とあります。つまり、主イエスが十字架に掛かるそのときが近いことを悟られてこのように言われたのです。この後、何が起こったのか？最後の晩餐が営まれます。弟子たちは集まって来るのですが、そのときに彼らが食卓に着く前に、イエスが弟子たちの足を洗いました。そのことが13章に記されています。12節から「12 イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着けて、再び席に着いて、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。13 あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。…17 あなたがたがこれらのことを知っているのなら、それを行なうときに、あなたがたは祝福されるのです。」と。「足を洗う」とは「仕える」ということです。なぜ、このことをイエスは弟子たちの教えたのでしょうか？

実は、ある問題が弟子たちの間にあったのです。ヨハネ13：30-31aに「ユダは、パン切れを受けるとすぐ、外に出て行った。すでに夜であった。31 ユダが出て行ったとき、イエスは言われた。…」とありますが、ユダが出て行くまでに何かがあるのです。それはルカが教えてくれます。ルカ22：23から見てください。「そこで弟子たちは、そんなことをしようとしている者は、いったいこの中のだれなのかと、互いに議論をし始めた。24 また、彼らの間には、この中でだれが一番偉いだろうかという論議も起こった。」と書かれています。実は、弟子たちの間で「いったい、だれが一番偉いのか？」という議論が起こっていたのです。でも、この議論はこの最後の晩餐のときに二階座敷で初めてされたのではなくて、イエスがカペナウムにいたときにすでにそのことを議論しているのです。そのとき、イエスは「宮に税金を払うことは正しいことですか？」と問われました。イエスは弟子たちに「魚を釣りなさい。最初に連れた魚の口にステタル一枚が見つかるから、それを私たち二人分として払いなさい。」と問われました。その出

来事があったすぐ後のことです。場所はカペナウムでした。マルコの福音書9章、ルカの福音書9章、また、マタイ18章にも出て来るのですが、そのときにこのようなことがありました。カペナウムに彼らが着いたとき、イエスは家に入った後、弟子たちに質問されます。「道で何を論じ合っていたのですか。」と。これはマルコ9：33です。34節に「彼らは黙っていた。道々、だれが一番偉いかと論じ合っていたからである。」とあります。つまり、このようにイエスとともに過ごした弟子たちの間に、「だれが一番偉いのか？」という話が為されたのです。道理で、二階座敷に上がったときに、だれも奴隷の役割を引き受ける者がいなかったのです。足を洗う行為は奴隷がすることだったからです。だれも仕えようとはしなかったのです。みな「仕えられること」を期待したのです。これが弟子たちの姿でした。そこで一番偉い神ご自身、イエスが出て弟子たちの足を洗ったのです。愛とは仕えることだと自ら示されたのです。

ガラテヤ5：13でパウロはこのように言います。「兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。」、また、ローマ書12：10でも「兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。」とあります。兄弟を愛するなら、その人は自分よりも優っていると思ってその人に仕えていきなさいと言うのです。まさに、それがイエスが十字架に掛かる前に弟子たちと最後の食事をなさったときに示された愛です。一人ひとりが仕える者であるなら、その群れは祝福されます。イエスが示された愛は自己犠牲の愛、赦す愛、無条件の愛、仕える愛、そして、最後に、

5) 戒める愛

「戒める」とは「罰」のことではありません。私たち信仰者も何か良くないことをすると神の罰があるのではないかと思う人もいますが、それは聖書的な教えではありません。神は私たちを「正しい方向に向かっていくように」と戒められるのです。まさに、これは矯正を目的とした懲らしめです。ソロモンは箴言13：24で「むちを控える者はその子を憎む者である。子を愛する者はつとめてこれを懲らしめる。」と言っています。子どもが神の前に正しく歩んでいくためです。子どもたちが間違っただけをしたり、罪を犯したとき、私たちは彼らを愛するゆえに彼らが正しい方向に戻っていくようにと懲らしめると言うのです。ですから、ヘブル人への手紙の中で著者はこのように言います。12：6、10「主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである。」、「10なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちに懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。」と。皆さんも信仰生活の中でそのことを経験されて来たはずで、神に喜ばれることをしていこうとしながら、残念ながら、私たちはときにそのみこころから外れてしまっただけで神を悲しませてしまうことがあります。そのときに、神の前に罪を悔い改めるならすぐに正しくなれるのですが、それをしないときに、神はあなたに「あなたは間違っている。」と諭してくださるのです。心の中で主があなたに語りかけておられるのです。「それは違う！」と。それが証拠に、あなたのうちから喜びがなくなります。感謝がなくなります。

神はあわれみをもって私たちに私たちの過ちを教えてくださいます。ですから、あなたがいつも神にあって喜び感謝しているなら、あなたは神の前を正しく、みこころに沿って歩んでいることになります。その証拠に、あなたはみことばに従って生きていこうとしているはずで、ところが、喜びもない、感謝もない、出て来るのは不満や文句ばかり…、それは私たちの心が神の前に正しくないからです。そうして、神はあわれみをもって私たちに私たちの過ちを示して下さり、正しい方向に戻りなさいと戒めてくださるのです。主がそのように為さる以上、私たちクリスチャンも兄弟姉妹が罪を犯しているなら、愛をもって彼らに「あなたは間違っている」と伝えるのです。なぜなら、罪を犯すことには何の祝福もないからです。みことばを見ると、もし、心の中に罪があるなら神はその祈りを聞かれないとあります。その人は神の祝福を得ることがないのです。その祝福とは、私たちの心のうちにもつことができる平安や喜び、感謝です。罪があるままではあなた自身だけでなく、教会も祝されないのです。

だから、私たちは神の前に自分をしっかり吟味して、神の前に罪を告白しながら生きていくのです。悔い改めの人生を過ごしなさいとルターは言いました。私たちはそのことを実践するのです。神に喜んでいただきたいという願いをもちながら…。ですから、兄弟を見て彼らが罪を犯しているなら、私たちは彼らを愛するゆえに、主がなさったように、また、なさっておられるように、その罪を悔い改めるように戒めることも愛だということです。

今、私たちは五つのことを見て来ました。ヨハネが私たちに言うことは「行ないと真実をもって愛そうではありませんか。」です。うわべでなく心から愛し合っていこうと言うのです。そのことを実践するときにはすばらしい約束がここに記されています。

2. その祝福 19節、22節

テキストであるIヨハネ3章をご覧ください。

1) 救いの確信 19節

「それによって、私たちは、自分が真理に属するものであることを知り、そして、神の御前に心を安らかにされるのです。」「それによって、…」と続きます。18節と関連しています。つまり、あなたが兄弟をうわべでなく「行ないと真実をもって」愛するなら「それによって、」です。

(1) 知る

「自分が真理に属するものであること」、すなわち、救われていることを知ることです。そのように歩んでいるなら神ご自身がそのことをあなたに明らかにしてくださるのです。20節に「たとい自分の心が責めてもです。」とあります。というのは、救われている皆さんも日々の信仰生活において、「自分の救いは本物かな？本当に自分は救われているのかな？」と疑うときがあります。まさに、ここに記されているように、「自分の心が責めて」いる状態です。

(2) 安らかにさせる

これは「信じさせる、納得させる」という意味です。20節の後に「なぜなら、神は私たちの心よりも大きく、そして何もかもご存じだからです。」とあるように、心を知っておられる神があなたにあなたが救われていることの確信を与えてくれると言うのです。このように兄弟姉妹を心から愛することは、あなたが救われていることの証拠であると言います。

2) 祈りが答えられる 22節

22節「また求めるものは何でも神からいただくことができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行なっているからです。」ここでヨハネが言っていることは、このように歩んでいるなら兄弟を心から愛しているなら、あなたの祈りはすべて聞かれるということではありません。なぜなら、22節の後半に「私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行なっているからです。」と条件が記されているからです。つまり、そのように神を愛する者たちは同じように兄弟たちを愛しています。それが神に喜ばれることだと知っているからです。つまり、この人たちの生き方は自分のしたいことではなく、神のみこころに従って生きていこうとするのです。だから、祈りが聞かれるというのです。なぜなら、このような人たちが祈り求めていることは「主よ、どうぞ、あなたのみこころが為されますように。」だからです。ヨハネはそのことを言っているのです。彼らは神のみこころに沿って生きていこうとしているのです。だから、ヨハネは約束したのです。そのようにみこころを求めて生きている人たち、あなたたちの祈りは必ず聞かれると。彼らの祈りは「神さま、このような必要があります。このようなことを私はあなたに求めたい。でも、どうぞ、みこころがなりますように。」です。その祈りは必ず聞かれます。神はみこころを為されるからです。

このような約束が与えられます。神の愛をしっかりと模範として、神はことばでなく実践をもって愛を示してくださったように、私たちもそのように歩んでいきなさいと言うのです。

3. 実践の力 : 「行ないと真実をもって愛する」には？

さて、確かに、実践は難しいことです。今まで見て来たように、そのどれを見ても難しいものです。自分を犠牲にして兄弟を愛することなど、どんなときでも兄弟を赦すことなど、無条件で彼らを愛するなど、また、彼らに仕えていく、そして、ときに、彼らを戒める…、非常に難しいです。ですから、簡単に、どうすればいいのかを言います。

1) 自分の罪深さを決して忘れないこと

私たちが高慢になっているとき、人を見下しているとき、なかなか神の愛をもって彼らを愛することや赦すことなどできません。私たちがいつも覚えておくことは、神の目に自分がどのように映っているのか、どれ程罪深い者であるかを覚えることです。マタイ6:12aに「私たちの負いめをお赦してください。」とありますが、「負いめ」とは借金、負債のことです。イエスがマタイ18章で面白いたとえを話されています。18:23-35です。1万タラントの借金があった者が赦してもらったという話です。このしもべは主人のところに行って『どうかご猶予ください。そうすれば全部お払いいたします。』と言います。でも、残念ながら、その借金は到底返すことが可能な金額ではありません。1万タラントです。1タラントは6000デナリ、1デナリは一日の日当です。ですから、1タラントは6000日分の日当になるのです。その1万倍です。6000万日分の借金を負っていることになります。年数に変えると約16万年分の日当の合計です。日当を1万円として計算するなら6000億です。返すことができない金額です。しかし、主人はそれを赦してやったのです。ところが、赦されたしもべがそのすぐ後に、自分がお金を貸している人物に会いました。金額は100デナリでした。そのしもべ仲間も同じように、『もう少し待ってくれ。そうしたら返すから。』と言います。でも、この赦されたしもべはそれを赦すことができなかったのです。それに対して主人はどのように怒ったのか？「借金を全部返すまで、彼を獄吏に引き渡した。あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。」皆さんがよくご存じの話です。

実際にこのようなことはしませんが、私たちは兄弟姉妹を比べて「私の中で一番です。」などと

言えるでしょうか？本当に神の目を通して自分を見たときに私たちに言えることは「神さま、罪人のかしらがここにいます。」です。そのような者であることを私たちは分かっています。そのような者である私たちを神は愛してくださり、そして、私をその罪から救ってくださったのです。私たち信仰者はいつもそのことを覚えることです。

2) 自分に対する神の愛を決して忘れないこと

ピューリタンがこのような祈りをしています。「罪のこの上ない罪深さを、救いのこの上ない高潔さを、キリストのこの上ない美しさを、恩寵のこの上ない驚きを、決して見失わないようにしてください。」と。自らの罪深さ、そして、神の大きな恵みを決して忘れたくないと、彼らはそのように祈りながら主に従い続けたのです。今の私たちにも必要なことです。ですから、自分の罪深さに気づき、それをしっかり覚え、神のすばらしいご恩寵をしっかりと覚えてそれに感謝して歩いていくのです。

3) 祈ること

そしてもう一つ、それは私たちが主の助けを求め続けることです。どれ程覚えていても、悲しいことに、私たちは愚かで弱いのです。感謝なことに、私たちはそのすべてを神の前にもっていくことができるのです。ローマ5：5「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」、このようにパウロが言いました。主イエス・キリストを信じたときに与えられた聖霊なる神が、神の愛を私たちに教え続けてくれるということです。どのような大きな愛で私たちが愛されているのか、どのような犠牲によって私たちは今この救いを楽しんでいるのか、そのような神の愛を内住する聖霊が教え続けてくれると言うのです。

そして同時に、聖霊なる神に私たちが信頼を置いて、この方に支配していただいて、この方に導かれて生きていくなら、私たちは「愛の人」へと変えられていきます。なぜなら、聖霊の実は「愛」に始まるからです（ガラテヤ5：22）。聖霊なる神は私たちがそのように変えていってくれます。

今日、私たちは神を愛する者として成長していくために、何を覚えるべきなのかを見て来ました。神の愛です。神ご自身の愛です。でも、その愛を私たちが実践することは非常に難しいと感じるのは、ここにいる皆さんの共通した思いかもしれません。でも、皆さん、このことを考えてください。主はこの働きをすでにあなたのうちに始めてくださったということです。主はあなたを変えようという働きをすでに始めてくださったのです。ですから、私たち信仰者は「こんな愚かな私を主はこれからどのように変えていってくれるのか」と、そのことを期待して今日を生きていくのです。そのためにも、私たちはしっかりと主がどのような愛で愛してくださったのか、そのことを覚えて、私たちを変えてくださる聖霊なる神の助けに自らをゆだね続けていくことが大切です。

結論： 今日のまとめです。

「神を愛すること」は「兄弟を愛すること」であり、また、「兄弟を愛すること」は「神を愛すること」でもあります。Iヨハネ4：20-5：1「:20 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。:21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。5:1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」

そして、「兄弟を愛すること」は、救われていることの証拠です。Iヨハネ3：14-15「:14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。:15 兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。」

バークレーはこのように言っています。「キリストが私たちに戒めを示された通りに、私たちは互いに愛し合わなければならない。その戒めはヨハネの福音書13：34にある（「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」）。それは、イエスが私たちが愛し給うたように、私たちが互いに愛し合わなければならないという戒めである。イエスが私たちが愛したと同じ、無私の、犠牲的、赦しの愛で私たちが愛し合わなければならない。この二つの戒めから分かることは、キリスト者の生活は正しい信仰と正しい行ないが結び合ったものでなければならないということである。この二つのどちらを欠いてもいけない。キリスト教倫理のないキリスト教神学はあり得ないし、同時に、その逆も成り立たないものである。行動の伴わない信仰はあり得ないし、行動は信仰によらなければならない。献身も大きな力もあり得ないのである。私たちがキリストの人格を受け入れない限り、キリスト者の生活は始まらないし、他人に対する態度が、彼の示す愛の態度と同じでなければ、本当に彼を受け入れたことにはならない。」

ヨハネは私たちに「口先だけでなく心からの愛をもって愛し合うように」と教えました。どうしてそれがそれ程大切なのでしょうか？どうして教会の中であって兄弟姉妹たちが愛し合うことが大切なのでしょう

よう？

◎ どうして兄弟姉妹が愛し合うことが大切なのか？

(1) 私たちが心から愛し合うことによって福音の宣教が為されるから

ヨハネの福音書 13 : 35 に「もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」とあります。つまり、私たちがキリストの愛を模範として愛し合っているなら、まだ、神を知らない人たちがそれを見て神のを知るようになるということです。ですから、このすばらしい神を世に明らかにしていくために、少なくとも、私たちは愛し合うことです。そのとき人々は、そのような私たちに変わってくださっている主を見るのです。そのような愛を通して、その愛の源である神のすばらしさを見るのです。

(2) 私たちは祝福を受け継ぐために救いに与っている

I ペテロ 3 : 9 に「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」とあります。ペテロは大切なことを私たちに告げています。私たちは神からこの祝福をいただいたのです。その祝福を人々に分け与えていくためにです。どんなにすばらしい神なのか？どんなにすばらしい祝福を私たちに与えてくれたのか？神を知るまでは私たちは好き勝手なことをして本当の祝福を得ようと思いました。本当の幸いを得ようと思いました。しかし、そこには答えはありませんでした。主イエス・キリストを知ることによって、私たちはその祝福を初めて経験する者となったのです。神はあなたにその祝福を与えてくれた、それは私だけのものではなくて分け与えていきなさいと言うのです。だから、私たちは神のみことばに従おうとするのです。だから、私たちはこの神のすばらしさを一人でも多くの者に知ってもらいたいと思うのです。だから、パウロは言うのです。ペテロは言うのです。ヨハネも言うのです。すべての信仰者に言うのです。そして、主ご自身が言われます。「わたしを愛しなさい。」と。そのときにその方によって救われた者たちを私たちは神の愛をもって愛する者になります。

神が喜ばれる本当の愛、それはことばだけに留まるのではなく、行ないをもってその愛は私たちの周りに現わされていきます。どうぞ、主の愛によって贖われた信仰者一人ひとりの皆さん、その愛を実践し、その愛を人々に伝える者として、祝福を分け与える者として、この一週間歩いていってください。神はあなたを使ってください、ご自身の目的に沿って用いてくださいます。そのことを願ってそのことを期待しながら、この一週間の歩みを歩んでください。

《考えましょう》

1. 兄弟姉妹を愛することが、どうして主を愛することになるのでしょうか？
2. 兄弟姉妹への愛を表わす具体的な行ないを挙げてください。
3. 兄弟姉妹への愛を実践する力を得るには、どうすれば良いのでしょうか？
4. 主が愛してくださった愛でもって、兄弟姉妹を愛することは可能でしょうか？

